

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2022年	
受賞タイトル	優秀賞	
区 分	Ⅲ. エンターテインメント・ディスプレイデザイン	
フリガナ	イシグロユミ	
制作者名	石黒裕美	
フリガナ	タマビジュツダイガク ビジュツガクブ カンキョウデザインガクカ	
大学・学部・学科	多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科(2022年3月卒業)	
フリガナ	マツザワミノル	職名
推薦者名	松沢穰	教授
作品名	八ッ沢水力発電所美術館	
概 要	山梨県の山間と町を這い、全長約14キロの水路を持つ、八ッ沢発電所は、明治45年に営業運転を開始して以来、約1世紀以上も稼働し続けている。ここを舞台に、リノベーションと増築の設計を行い、水力発電所美術館を提案した。当時、水力発電所として東洋一の規模を誇った壮大な自然エネルギーの活用携帯と、残し続けるべき遺産は、まさに芸術作品と言っても過言ではない。壮大なスケールの体感と、当時の設計士の賜物に思いを馳せ、今一度人と自然の共存を考えたい。この美術館で、壮大なランドスケープが体感できる企画と、その道中に4棟の建築を設計し、その旅をヘリテージツーリズムとして提案する。スクラップ&ビルドの傾向が強い日本においては、ともすれば最新技術のみが注目されがちだが、元をたどれば原点となる技術や産業があったからこそ現在の産業が存在するのである。産業発展の礎となった産業の足跡をたどることにより、当時から現在までの地域性や歴史・生活・文化等を学び、さらには未来のイメージを考えさせるきっかけとしたい。 	

製作者名	石黒裕美
作品名	八ツ沢発電所美術館

【コンセプト解説】

山間部が多い日本は水力発電に適しており、100年以上前から水力発電は電力供給に貢献し、太陽光発電等の導入が進む現在においても、水力発電は電力供給の7.8%の国内で最大の再生可能エネルギーとなっている。その一方で、大規模水力発電所のこれ以上の開発は難しく、既存のダム設備更新や用途変更を通して発電出力を高めていくことが今後の課題だそう。つまり、今ある遺産を後世まで残し、効果的に活用できるかが重要である。八ツ沢発電所施設は、桂川にほぼ平行して東西に延びる水路式発電所施設。東京電燈株式会社が第二水力電気事業の一環として建設したもので、明治43年に着工、大正3年の大野調整池の完成をもって全体が竣工した。建造物は、取水口施設、第一号から第一八号の隧道、第一号開渠、第一号から第四号の水路橋、大野調整池施設、水槽余水路などで、約14キロの範囲に現存する。2005年12月27日の官報告示により重要文化財として指定され、明治後期の水力発電所建設の黎明期における、大規模な水力発電所関連施設が水系全体として残っていることに加え、当時の鉄筋コンクリート構造の水路橋としては、国内最大級の径間(橋脚の間隔)を実現した第1号水路橋や、ダムの高さとしては国内最大であった大野調整池堰堤など、複数の構造物に高度な土木建設技術が発揮されていることが評価された。当時、水力発電所として東洋一の規模を誇った壮大な自然エネルギーの活用携帯と、残し続けるべき遺産は、まさに芸術作品と言っても過言ではない。壮大なスケールの体感と、当時の設計士の賜物に思いを馳せ、今一度人と自然の共存を考えたい。

